

# 新たな美術館の基本方針



平成27年2月

# 目次

---




1	ビジョン（目指す美術館イメージ）	.....	P 1
2	コンセプト（美術館運営方針）	.....	P 2
	1) 郷土の歴史をふまえた特徴あるコレクション形成	.....	P 3
	2) 魅力ある展覧会や教育普及活動の展開	.....	P 4
	3) 石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動	.....	P 5
	4) 市民と共に創り育てる仕組みづくり	.....	P 6
3	管理運営主体	.....	P 7
4	今後のステップ	.....	P 8


# 1 ビジョン（目指す美術館イメージ）




## とき・ひと・美をむすぶ美術館

ビジョンには、美術館が「とき」「ひと」「美」をむすび（結び）、久留米市の文化芸術の発信・創造の拠点として発展していくように、という願いを込めています。

 「とき」をむすぶ … 石橋正二郎名誉市民の想いと前身の石橋美術館の60年の歴史と伝統、さらには、青木繁や坂本繁二郎などのすぐれた先達を育んだ久留米の芸術的土壌を、今後も世代を越えて受け継いでいくことを、意味しています。

 「ひと」をむすぶ … 美術館に子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人々が集い、美術を通して、さまざまな出会いや交流が生まれること、豊かな心や創造性が育まれることを、意味しています。

 「美」をむすぶ …… 久留米にゆかりのある作家を中心として、九州全域へ目を向けた美術作品を収集・展示し、郷土の魅力と誇りを将来にわたって伝えていくことを、意味しています。

## 2 コンセプト（美術館運営方針）



### 1) 郷土の歴史をふまえた特徴あるコレクション形成

近代以降、すぐれた洋画家たちを輩出してきた久留米の歴史と、同じく多くの洋画家たちを生んだ九州全域に目を向け、久留米ゆかりの作家を核とした九州洋画の体系的コレクションを形成する。

### 2) 魅力ある展覧会や教育普及活動の展開

美術作品・資料の収集、保存、展示、調査研究といった、美術館本来の役割をしっかりと果たしていくとともに、他の美術館と連携した巡回展など、これまでにないアプローチで、魅力ある展覧会を展開していく。また、市民への教育普及活動の充実や学校教育との連携を積極的に進めていく。

### 3) 石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動

恵まれた立地環境を活かし、石橋文化センター全体をひとつのミュージアムと捉え、美術館事業と園内イベント、さらには、他団体などと連携した事業を展開する。

### 4) 市民と共に創り育てる仕組みづくり

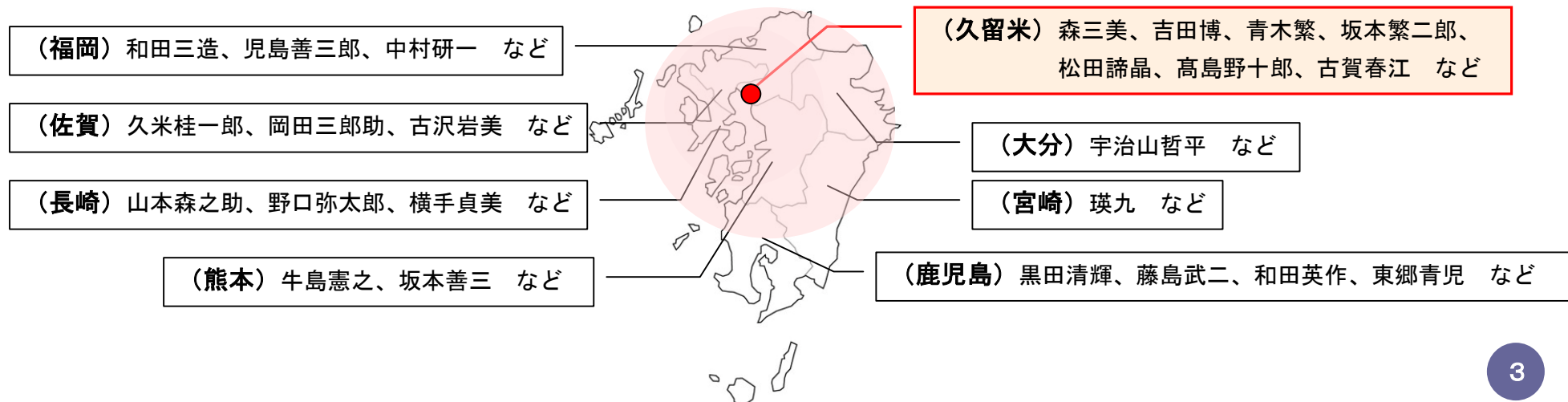
市民の美術館への関心を高める取組を進めるとともに、ボランティアや寄付制度など、さまざまな場面で、市民の協力や支援を得ながら活動することで、市民に「自分たちの美術館」として親しまれる美術館を目指す。

# 1) 郷土の歴史をふまえた特徴あるコレクション形成



- 久留米は、近代以降、青木繁、坂本繁二郎などすぐれた洋画家たちを輩出してきたことで、全国的に知られている。これら久留米出身の洋画家たちを中心として、さらに九州全域へ目を向けた、九州洋画の体系的コレクションを形成していく。
- 九州の公立美術館においては、郷土ゆかりの作家の作品を収集している点が共通しているが、各地域に限定されている傾向がある。「久留米を核としつつ九州全域に視野を拡げたコレクション」という視点は、これまでにない独自のものであり、そうした作品の収集を進めることによって、他館とは違った、特徴あるコレクション形成を目指す。
- 九州の代表作家などをターゲットとした作品を収集していくことで、調査研究や展覧会の共同実施など、他館との連携を図る。

## 《九州の主な洋画家たち ～九州洋画の中心地・久留米～》



## 2) 魅力ある展覧会や教育普及活動の展開

---



- 美術館活動の基本となる、ビジョンやコンセプトに基づく美術作品・資料の収集、保存、展示、調査研究の各活動を継続かつ安定的に実施していく。
- (公財)石橋財団の協力により、当分の間、石橋財団コレクション展を継続して実施していく。
- 他の公立美術館や私立美術館と連携した巡回展などを定期的実施していく。
- 子どもたちを対象にした企画展など、さまざまな美術ジャンルの展覧会を開催するなどして、幅広い層の美術ファンを獲得していく。
- 子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人々を対象にしたワークショップや美術講座などの教育普及活動を展開することで、美術館が世代を越えた交流の場となることを目指していく。
- 学校と緊密に連携・協力して、子どもたちの情操教育の場として美術館を積極的に活用するような取組を進め、子どもたちが、自ら美術に触れ、学び、楽しめるような仕組みづくりを進める。

### 3) 石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動



- 美術館の館内活動にとどまらず、恵まれた立地環境を活かして、石橋文化センター全体のアート化を進めていく。
- 石橋文化センターのホール事業や園内事業と連携した展覧会やイベントを開催し、相互の魅力の向上を図っていく。
- 美術館以外の石橋文化センターの各施設を、ワークショップや市民の創作活動の場として活用していく。
- 美術館本館・別館とも、市民が園内から入りやすい環境整備を進め、市民が美術に触れる機会を増やしていく。
- (公財)石橋財団により、美術館別館の一部を改修し、石橋正二郎名誉市民の遺志を継ぐための「(仮称)石橋正二郎記念室」を設置していただく。
- 他の自治体やさまざまな団体と連携したイベントを実施するとともに、美術館を含む石橋文化センター全体の効果的な情報発信につとめ、市外からの入園者や入館者を増やしていく。



## 4) 市民と共に創り育てる仕組みづくり

---

- 美術館活動を積極的・継続的に情報発信し、美術館への関心を高めていく。
- ギャラリートークやワークショップなどの補助をするボランティアを育成・支援し、美術館活動に関わる人を増やしていく。
- 寄付制度の活用や新たなサポーター制度などを構築し、市民から「自分たちの美術館」と、身近に感じてもらえる美術館を目指す。
- 美術館に寄せられる市民の声を積極的に収集・分析し、美術館活動に活かしていく。



### 3 管理運営主体

---



- 平成28年10月からの新たな美術館は、以下の理由により、（公財）久留米文化振興会が管理運営する予定。
  - ① 同振興会は、地域の文化芸術振興を久留米市と車の両輪のように一緒になって推進する公益財団法人である。
  - ② 同振興会が、美術館を含めて石橋文化センター全体を一体的に管理運営することで、魅力ある企画や事業運営が期待できる。
  
- 管理運営体制については、（公財）石橋財団 石橋美術館から、学芸課長及び総務課長を含む5名の職員を同振興会に受け入れる予定。

## 4 今後のステップ

---



- コンセプトにある、「郷土の歴史をふまえた特徴あるコレクション形成」に基づいた美術品の収集に向けて、対象作品の選定を行う「(仮称)久留米市美術品収集委員会」を設置する予定。
- 平成27年度以降に美術品の購入予算を計上し、具体的な収集活動を開始する予定。
- 平成28年10月の運営移行記念特別展に向けた準備に具体的に取り組む。
- その他、具体的な管理運営業務の各項目については、引き続き、「移行準備チーム」を中心に、検討していく。